
しろはく活動記録

古地図と城の泉 第3号(新年号)

平成26年1月1日

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

始めに

2014年あけましておめでとうございます。人生後半の海、新世界に乗り出して1年。24時間古地図と城とはどういうものか、実践に努めてきました。去年は博物館事業として、安中市学習の森歴史博物館で会津若松城下絵図屏風展で会津の心に挑戦し、上田の真田歴史館では真田の城郭と戦歴展を開催。今年春には『城絵図に見る戦国群馬展』(仮称)を開催予定しています。年末、安中市原市町の膨大な古記録古文書を大量に収蔵、さらに、12月28日整理しきれませんでした。武術資料として秘伝書や古地図、錦絵等で埋まり、新年を迎えることになりました。月々半数は城古地図資料の発見に出張しています。古地図資料を紹介、持参いただく関東、中部、東北地区の古美術、骨董関係者のご協力には感謝の他ありません。11月には群馬古書組合に入会し『古地図と城専門店 古書肆城郭文庫』創業、日本唯一の城郭と古地図の専門店、夢に見た起業です。城にかける命と時間、膨大な古地図や城郭資料が流入。内容を覚えきれないために創刊した『しろはく活動記録古地図と城の泉』も早3号、月刊のペースです。いつまで続くかわかりませんが、まだまだ市場に膨大な資料が眠っており、その発見と顕彰に努め、ご紹介できればと考えて居ます。今年も夢に溺れます。よろしくお願いします。

城郭資料調査報告

1・江戸の城郭研究 兵法築城学 先史的縄張調査研究

(本稿は2009年1月関西城郭研究会機関誌『城』193号に元事務局長山崎義隆氏追悼として作成、新年例会講演会に発表したものです。山崎氏には日本城郭近畿学生研究会や全国城郭連絡協議会運営で大変お世話になりましたが、結婚祝いとして、今話題の但馬竹田城絵画をいただきました。『竹田城趾』1978年新制作協会員小松益喜画、竹田城趾二の丸よりと記入されています。)



加賀藩甲州流兵学者有沢永貞自筆築城絵図 絵巻の内4絵図

い) 江戸の城郭研究は、軍学の兵法書、古城記、古城書上帳、軍記、古城絵図等の分野です。この部分もほとんど先行研究がありませんので、所蔵目録の編纂による体系整理から始めることになり

ます。鎖国政策と城郭統制の中、内戦もなく、砲艦が未発達で海に守られた江戸中期の理論上の城郭研究は武教七書、特に孫子兵法の解説に始まり、幕末まで、時代背景を異にする中で進められた。

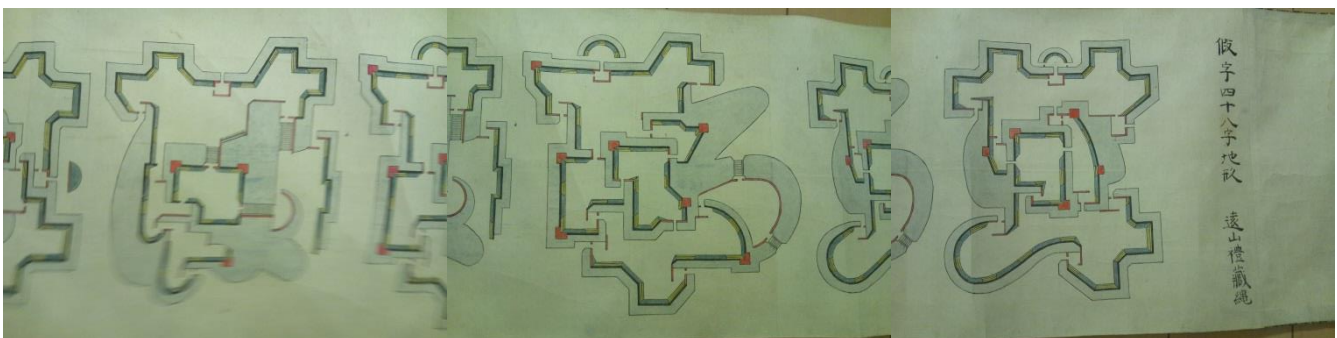
『江戸の兵学思想』野口武彦によれば孫子の兵書注釈としては、1626年林羅山『孫子諺解』1673年山鹿素行『孫子諺義』1722年新井白石『孫武兵法拓』1791年佐々木琴台『孫子合契』1833年森山定志『孫子管窺』1846年篠崎睽孤『孫子発微』頼山陽『古文典刑』荻生徂徠『孫子国字解』桜田子恵『孫子略解』伊藤鳳山『孫子詳解』1858年吉田松陰『孫子評註』がある。



孫子竹簡複製

孫子注釈書

一方、日本の戦史研究も、幕府兵法である甲州流を基本として、全国に加賀藩の有沢流を始め、多くの流派を生み出しました。高坂昌信甲陽軍鑑、小幡景憲の甲陽軍鑑解説書、北条氏長の兵法雄鑑、雌鑑、士鑑用法等、山鹿素行の武教全書、長沼流の兵要録、荻生徂徠の鈴録、楠流七巻書、佐藤信淵兵法一家言等の兵法書が編纂された。彼らの業績を評価したいのは、今の縄張研究とほぼ同じ軍事的観点から作成された膨大な量の全国古城絵図です。現地を歩き、測量し作成された江戸中期の古城の姿は消滅した城郭の縄張を研究する上で貴重なものです。富原文庫も数千枚の兵法城絵図、古城絵図を収蔵していますが、旧大名家である蓬左文庫、浅野文庫、加越能文庫、国文学資料館等全国に残された江戸の縄張研究の評価を充分に行うべきです。又、古城書上げという幕府巡見使報告に起因すると考えられる、全国の古城記も初期の日本城郭全集の編纂や各地の地方史編纂に活かされています。江戸の縄張研究では、現地調査と絵図収集が大きな成果です。多くの古城絵図集が編纂され残されました。城郭の歴史と構造を解明しようとした姿は今の縄張研究と変わりません。この成果を生かし、現在の縄張研究と比較が出来ればと考えています。ただ、誰一人実践の経験がない時代に編纂された、縄張研究は太平の時代においては机上の学問となり、多くの練習縄張図を生み出しました。その所産の極地が『**仮本いろは字形縄**』のような、とても地形に即した縄張研究の成果とは考えられない架空の絵図まで作成されました。



『仮本いろは字形縄』兵法秘伝書に見る太平の築城技術図48図1巻、堀がいろは文字。ろ) 実践の時代、城が築かれた時代の研究として、室町時代中期末期の作とされる『築城記』は天正以前の築城思想を40項目伝える唯一の貴重書で、(当文庫にも有馬成甫の写本が収蔵) 内容はすでに多くの紹介がありますので省きますが、これ以外の百戦錬磨の戦争を経験した時代の実践的

城郭研究は、築城秘伝書のような同時代資料の調査と解明が必要とされています。甲陽軍鑑も長い論争の果てに、ようやく、其の文体から高坂弾正の作と認知された。

2・幕末西洋築城技術導入史

今ひとつの時代、発達した軍艦と大砲の脅威にさらされた砲艦外交の幕末、城郭要塞技術を海外から導入し、西洋式城郭、台場の構築等国防に翻弄された時代。明治政府、陸軍が海外へ進行し、国家間戦争となった時代、城郭研究とはいつの時代も先端の防衛陣地としての、攻撃基地としての築城をする技術であった。幕末、アヘン戦争等欧米列強の植民地政策、開国要求の中で国防城郭の築造はどのようにされたのか、それでは、砲術、測量、兵制等西洋技術導入の軌跡を見てみたい。それは西洋の要塞、稜堡城郭技術導入であるが、稜堡城郭そのものは西洋においては数百年前から存在する技術であり、築城書も見られる。和蘭の政策か、鎖国時代の我国が必要としなかったのか。日本には長く伝わることはなかった。幕末の天保時代幕府の指示により、天文方等の築城本翻訳事業を幕末明治西洋要塞築城翻訳本目録を作成することで実像を見てみたい。翻訳本の編年と原書との関係を眺めていただきたい。

幕末明治西洋要塞築城翻訳本目録 (2009年1月3日作成)

- 1) 本目録は富原文庫及び板橋区立郷土資料館所蔵旧青圃文庫の築城書翻訳本所蔵目録です。
青圃文庫は軍事史学の第一人者である有馬成甫のコレクションに、銃砲史学の大家、所莊吉が完成させたもので、兵法、砲術にかかわる日本の一大コレクションです。今回、其の西洋砲術にかかわる部分について、高島秋帆と西洋砲術で名高い板橋区立郷土資料館が収蔵したものです。なお、同文庫は防衛大学校有馬文庫、国立歴史民俗博物館にも分納されている。今回、記名以外は富原文庫収蔵品、また、有馬成甫の書簡類百通余りと築城記は当文庫の所蔵となる。
 - 2) 大聖寺藩の聖藩文庫のように旧大名家の古典蹟を収蔵する機関の所蔵目録数百冊からの検索は今回時間の関係で行っていません。ただ、高知県立図書館、酒田市立中央図書館の収蔵翻訳本には新たな書籍はみられませんでした。
- 1 嘉永5年1852年 『海岸備要』4巻5冊本木正栄訳 原書1751年
 - 2 安政6年1859年 『築城新法初編』広瀬元恭訳 時習堂蔵 木版 安政6年初春官許 5冊
板橋及び富原文庫収蔵 1843年野戦塁堡の防御術を教導する1書 20余年絶版 紀元1856年和蘭 歩兵隊第5部把教官(教佐官) 伊普別屈満(イフベクマン) 謹識 野戦塁堡築造の方略を教導するの書 予備器械総説 塁堡築造の基礎 塹壕の発掘及び胸牆の築造 胸牆を被覆する諸具の製造及び其用法 塁堡の抗拒力を強増する所の諸術等7巻 築城新法図63図
 - 3 万延元年1860年 『築城典刑』前編2冊後編3冊 万延元年10月 縄武館蔵
甲必丹吉母波百兒(ファンケルキウエーキ)著築城編 大鳥圭介訳鑄造活字版 5冊 築堡法 永久築城法等1—5編 付図1—92図
 - 4 文久元年1861年 『築城新法2編』広瀬元恭訳 時習堂蔵 木版 文久元年暮秋官許 5冊
1852年百兒著(ペル)所蔵板橋 塁堡の縄張 単堡の総論 複堡の総論 襲撃・防禦等7巻 築城新法2編図1—24図
 - 5 文久元年1861年 『野堡建築論』乾坤2冊写本生田勝喜代訳 所蔵板橋 原書1856年ハンドレーゼン、ベー、ツト、ランテルリフト、イン、デ、フルシカンシンク、スキンスト 洋学所文庫朱印
 - 6 慶応元年1865年 『官版英国斯氏築城典刑 初編』陸軍所 慶応元年夏吉澤勇四郎識 2冊 所蔵板橋 原書『ホルチヒケーション』城堡建築術という義 著者 英国マヨル

- ヘクトルストレイト 1858 年 木版 西洋城堡の経始法 初編 1—3 巻 2 編 4—8 巻 3 編 9—11 巻 4 編 12—14 巻 5 編 15—17 巻 初編付図 1—81 図
- 7 慶応 2 年 1866 年 『官版英国ス氏築城典刑 弍編』陸軍所 慶応 2 年 2 月吉澤勇四郎訳
弍編付図 8 2—110 図 木版 所蔵板橋
- 8 慶応 3 年 1867 年 『築城約説』『築城約説図』英国 1861 年開彫 慶応 3 年夏 誠格堂発行
2 冊 薩州降橋源神錫 松山小林小太郎訳 1—6 章 木版 付図木版色刷 1—7 図 しろはく双書 1 4 として刊行
- 9 慶応 4 年 1868 年 『戦地急構堡砦新論』英人嗎高来原撰（マカウライ）2 冊寧静斎蔵板
英吉利藩属上カナダ国民兵の築城学教頭 1860 年ロンドン刊 福山石川長次郎訳述 初編 2 編以下追々出来 木版 所蔵板橋
- 10 慶応 4 年 1868 年 『堡障略典』慶応 4 年秋兵学校 5 巻 2 冊付図 所蔵板橋
海軍図書印 砲兵局蔵
- 11 明治 3 年 1870 年 『金湯中学』『金湯中学図』2 冊明治 3 年 6 月
兵学寮 大島恭次郎訳 所蔵板橋
- 12 明治 12 年 1879 年 4 月 26 日 『兵略戦術実施学巻之一』田嶋応親訳 西郷従道序
原書 佛国参謀学校軍術教官大佐ブイヤル著 書名アププリカーションド、タクチック、エー、ド、ストラテジー 1 巻 1877 年 2 巻 1978 年 1—8 巻
- 13 刊年不明 『海国兵要全』安積明閑 翠雪楼蔵 上下 1 冊 西洋城攻の法等
- 14 写本年不明 『砲台砲壘築城図解（仮称）』訳本写本砲台図 1—2 7 図
- 15 明治 22 年 1885 年 1 月—明治 23 年 10 月 『現時築城論』
明治 22 年 1 月陸軍工兵少佐石本新六閑 陸軍工兵大尉小川・福原・田内・陸軍砲兵中尉山口合訳 全 6 冊 砲工共同会記第 13・14 号偕行社記事第 27・39・43・47 号付録 原書 ベルギー陸軍中将ぶりあるもん著 1885 年刊
- 16 明治 30 年 1897 年 『海岸築城論』明治 30 年 6 月 23 日陸軍砲工学校
原書 英国工兵少佐ケンヨン著 1894 年工兵会院記事 奥国工兵大尉ルドリーシスル翻訳 1896 年砲工申報 陸軍工兵少佐太田正徳訳 和装本 海岸の防備、海岸の築城、海岸砲台、海岸砲等 30 枚 付図 3 版 3 図
- 17 明治 32 年 1899 年 『偕行社記事第 215 号』明治 32 年 4 月 17—28 ページ
現時築城はいかに編成すべきや 陸軍工兵大尉松井倉之助訳 1896 年ブリヤルモン著
- 18 明治 41 年 1908 年 『明治四十一年 築城学読本 応地築城』陸軍砲工学校
原書 1899 年佛国砲工実施学校教官工兵少佐チェデウ及び大尉シモン編 陸軍工兵中佐松井倉之助訳 51 ページ付図 5 版 52 図
- 19 明治 43 年 1910 年 『築城学読本 露国野戦築城教範技術の部 砲工兵科学生用』
工第 231 号 明治 43 年 9 月 19 日陸軍砲工学校 原書 佛国工兵大尉ウイリン及びビルレット佛訳 陸軍工兵中佐川人潔太郎訳 196 ページ 付図 17 版 204 図 付表 1—9

以上を分析すれば、伝えられた最初の築城書は判明している範囲で『築城新法初編』となるが、この書は和蘭で出版されて、わずか、3 年後には多くの図版とともに日本に伝えられている。この後の資料もほとんどが 5 年から 10 年で和蘭、英国、佛国、ベルギーの軍人から伝来している。今回は伝来の履歴のみ紹介し、内容の分析については後日行いたい、この翻訳本と渡来軍人からの海外技術の導入は明治末まで継続している。それ以降、戦前まで、翻訳本が見られなくなるのは独自

技術の進化によるものと思われる。『築城新法』『築城典刑』『築城約説』『海岸築城論』等19点を目録に抽出したが、さらに、調査を進めて全容を解明したい。

3・旧陸軍による城郭資料の編纂目録(改訂版)

『明治以降、政府、陸軍による城郭資料所蔵目録』は、富原文庫の旧陸軍資料を始めて、体系的に編年整理したものです。多くの漏れが見受けられますが、其の履歴を探ることで、今回、始めて、旧陸軍の研究史を明確にできたのではないかと考えています。それでは、編纂の完了した目録をご覧ください。(本稿も講演資料の一部ですが、今回掲載に際し、その後の資料を追加改訂した。築城学教程も今日ほとんど見なくなったが、大量の陸軍資料の中に紛れることがある。これら陸軍の城郭調査を抜きに、城郭研究が語れないことは、国会図書館の日本城郭資料や支那城郭の概要を見れば自明の理であるが、これまであまりにもないがしろにされてきた。)



明治以降、政府陸軍による城郭資料目録 (所蔵富原文庫)

2009年1月4ー11日作成 2013年12月4ー5日改訂

- 1) 本目録は明治政府、旧陸軍に於ける城郭への関わりを理解するために、富原文庫収蔵の陸軍城郭資料のみを、始めて、抽出し、編年したものです。測量、銃砲等関連分野についての旧陸軍の総合的な実績を明らかにすべきと考えますが、次回とします。
- 2) 旧陸軍の翻訳本については、明治以降であっても、除外し別目録としました
- 1 明治4年1871年8月 『兵部省告知、廃藩、兵制改正、鎮台置管(仮)』木版 兵部省
東京・大坂・鎮西・東北鎮台、分営常備兵、常備兵は元藩下之常備兵を召集
地方城郭之義兵部省管轄、明細之図面相調早々兵部省へ可差出事
- 2 明治6年1873年7月19日 『太政大臣三條実美布告第二百五十五号鎮台条例別冊』
56條 鎮台条例別冊改定布告、東京・仙台・名古屋・大坂・広島・熊本鎮台・
北海道等7軍管 14師管40営所 京都府知事・堺県庁布令・市販計3冊所蔵
- 3 明治9年1876年 『築城教程』内題築城教程読本 明治9年8月陸軍士官学校学科部
1 一般の要領並に定説 2 野堡を総称して堡塁の名目 3 経始 4 堡塁内部の編
制 5 副防禦 6 遮蔽法及び野堡構築 7 変地に於ける堡塁 8 設堡陣地の攻撃
及び守防 9 野堡の活用 付図91図欠 和装活字本96枚
- 4 明治15年1882年 『臨時築城教程第一版全』明治15年6月19日 陸軍文庫
1 総論築城の定説 2 堡塁 3 経始 4 堡塁内部の編制 5 副防禦 6 遮蔽法及
び野堡の構築法 7 陣地防禦編制法 8 野堡の活用 9 原野に於て軍隊の定位に
関する作業 10 野堡の攻撃法・防禦法 和装活字本138枚 付図1ー34版要塞
225図 同一本2冊及び付図のみ1セット収蔵
- 5 刊年不明 『臨時築城教程第二部付図』大判1ー29版要塞127図 本文欠
堡塁別工手数、器具数、時間、備考、1ー6表 軍隊単位別配付器具表、工事の

簡略法

- 6 刊年不明印刷推定明治 17 年以前『永久築城第二教程卷之二』第五編 海岸築城和装 111 枚
- 7 明治 17 年 1884 年 『築城学教程永久之部第五編 海岸防禦 第一版』陸軍大学校講本
明治 17 年 9 月 陸軍大学校助教工兵大尉三村友芸編纂 陸軍文庫蔵
- 8 作成年不明 『要塞砲兵砲台勤務完』草稿 手書き 33 枚 しろはく双書 15 刊行
1 部砲台勤務 1 砲台の区分及び統属 2 指揮の連携 3 指揮官 4 警戒勤務 5
砲台内の勤務 6 宿営 7 衛生 8 給糧 9 弾薬の補充 10 材料及び砲台修理
2 部砲台演習 1 一般の要領 2 演習の結構及び実施 3 演習材料
- 9 明治 26 年 1893 年 『軍事学』明治 26 年 9 月 14 日—10 月 5 日軍事学講義 4 回
測図学、国軍の編制、野戦軍背後勤務等合冊 著者不明活字本付図 17 図
- 10 明治 28 年 1895 年 『二十八年第三版 築城学教程 永久築城の部 卷四』和装本
付図 1—45 版 165 要塞図 同一本 2 冊収蔵 刊行所不明
- 11 明治 31 年 1898 年『三十一年改訂 築城学教程 卷 1・卷 3・付録』卷 2 欠第 73 号
陸軍士官学校 明治 31 年 12 月本書により築城学を修習スベシ
卷 1 臨時築城之部 明治 20 年 12 月編纂 22 年 1 月改訂 23—28 年毎年改訂増冊 30
年改訂増冊 31 年 12 月陸軍工兵大尉堤吉次改訂増冊 174 ページ 付図 44 版 238
図 洋装本 卷 3 永久築城 116 ページ付図 40 版 144 図 洋装本 付録 野戦
工事必要人員器具時間表 小型 1 枚 6 折本
- 12 明治 32 年 1899 年 『三十二年初版築城学教程卷之二付録』交通学応用作業教例
明治 32 年 7 月教官陸軍工兵大尉岡田直方編纂 洋装本 56 ページ 1—4 表 6
版 18 図
- 13 明治 33 年 1900 年 『砲兵学校 要塞戦史第一版』明治 33 年 7 月 5 日工第 107 号
陸軍砲兵学校 1864 年ジュツペル要塞の攻守 付録攻城計画案 付図 5 版
- 14 明治 33 年 1900 年 『三十三年改訂 築城学教程卷 1 付録・2・3・3 付録』
卷 1 付録 33 年改訂臨時築城学応用作業教例 62 ページ 1—3 表 付図 6
版 13 図 同一本 2 冊
卷 2 明治 31 年 12 月陸軍工兵大尉熊野御堂武夫編纂 32 年・33 年 1 月・
12 月増冊 交通（道路・橋梁・鉄道・電信）116 ページ 付図 32 版 163 図
卷 3 明治 32 年 3 月陸軍工兵大尉伊藤直光編纂 33 年 34 年増冊
永久築城 117 ページ 付図 35 版 123 図
卷 3 付録 内題築城沿革略史
明治 33 年 4 月教官陸軍工兵大尉庄田藤治編纂
34 年 9 月教官陸軍工兵中佐榊原昇造増補
1 外国築城の沿革 2 本邦築城の沿革 19—80 ページ 付図 17 版 23 図
18 図大庭古城
19 図菅谷村古城明治 33 年 3 月 29 日歩兵中尉多賀宗之著
20 図松山古城明治 33 年 4 月 1 日騎兵中尉佐伯岩二
21 図鉢形古城明治 33 年 4 月 10 日測図歩兵中尉吉田護朗騎兵中尉壬生基義
23 図五稜郭平面断面図 陸軍工兵大尉岡田直方
- 15 明治 34 年 1901 年『三十四年改訂築城学教程卷 1・1 付録・2・3・3 付録』第百号
卷 1 明治 34 年 9 月陸軍士官学校 135 ページ 付図 26 版 151 図
卷 1 付録 35 年 3 月改訂 33 年と同様

巻2 35年1月増冊 104 ページ基本 33年同様付図2 4版 134 図

巻3 明治三十五年改訂 112 ページ 付図 27 版 95 図

巻3 付録 **築城沿革略史** 78 ページ付図は 33 年と同様 同一本 2 冊

1 6 明治 35 年 1902 年『明治三十五年**要塞戦術学**教程第三版全』陸軍砲工学校工第 132 号

本書により要塞戦術の科目を修習すべし明治 3 5 年 8 月 30 日

要塞戦術とは築城学教程の一部として講授 和装本 181 枚

第 1 版明治 25 年 2 月陸軍工兵大尉中村愛三編纂 第 2 版 26 年改訂

第 3 版 30 年 8 月改訂 **31 年 12 月新教則に基づき 1 科となす。**

引用書目 1899 年佛国攻守城教令 1899 年奥国プリンネル要塞戦術

1898 年白国ドギース要塞の攻撃及び防禦 1901 年独国スターベンハーゲン

要塞戦法 1897 年奥国ジクムントミーリヒホーフエル海岸要塞戦 1899 年

同築城学海岸防禦 明治 33 年陸軍要塞砲兵射撃学校編纂海軍戦術 1 陸地要

塞戦 2 海岸要塞戦

1 7 明治 35 年 1902 年 『明治三十五年築城学教程 素質 第六版』工第 137 号

『明治三十五年築城学教程 素質 第六版 付図』

内題砲工学校築城学教程 2 冊 明治三十五年 12 月 3 日

陸軍砲工学校 和装本 59 枚

明治 24 年 5 月開刷 陸軍工兵大尉石川義仙編纂

引用書目 1896 年佛国砲工学校著築城学教程第 2 部等

大判付図 5 3 版 120 図

1 8 明治 36 年 1903 年 『明治三十六年築城学教程 要塞編成 第 7 版』工第 145 号

明治 3 6 年 6 月 1 6 日陸軍砲兵学校 和装本 1 1 8 枚

1 9 明治 40 年 1907 年 『四十年改訂 築城学教程 巻 1・1 付録・2・2 付録』第 153 号

明治 40 年 12 月陸軍士官学校

巻 1 野戦築城 167 ページ付図付表 巻 1 付録 93 ページ付図

巻 2 交通 157 ページ 付表付図 巻 2 付録 92 ページ付図

2 0 明治 41 年 1908 年 『明治四十一年 築城学教程 第一版 築城歴史』工第 1 9 2 号

明治 40 年 11 月 5 日陸軍砲工学校 和装本 53 枚付図 16 版 56 図

本書 元築城素質の一部として明治 36 年陸軍工兵少佐松井倉之助 大尉島捨

吉編纂 大尉松井順訂正築城歴史第 1 版とする

2 1 明治 41 年 1908 年『教範改正草案対照 野戦築城研究』明治 41 年 1 月 20 日 XYZ 著

東京厚生堂刊行 巻上 126 ページ 下欠

2 2 明治 42 年 1909 年『明治四十二年 築城学教程 海岸築城 第十二版』工第 2 0 8 号

明治 4 2 年 2 月 27 日陸軍砲工学校 和装本 83 枚

第 1 版明治 24 年石川工兵大尉以下 11 版まで改訂

2 3 明治 42 年 1909 年 『明治四十二年 築城学教程 築城歴史 第二版 普通科砲工兵用』

明治 42 年 11 月 2 日陸軍砲工学校 明治 41 年版と同様

2 4 明治 42 年 1909 年 『明治四十二年 築城学教程 素質 第九版 普通科砲工兵用』工第 2

2 1 号 明治 42 年 11 月 31 日 陸軍砲工学校 和装本 58 枚

2 5 明治 42 年 1909 年 『明治四十二年 築城学教程 要塞編成第 2 部第十版 砲工兵高等科用』

『同付図』2 冊 和装本 94 枚 大型付図 36 版 56 図

2 6 明治 42 年 1909 年 『四十二年改訂 築城学教程』巻 1－3 付図 1－3 完

明治 42 年 12 月陸軍士官学校

巻 1 野戦築城 184 ページ付図付表 付録 107 ページ付図付表

巻 2 交通 193 ページ付図付表 付録 68 ページ付図付表

巻 3 永久築城 1 4 1 ページ付図付表

付録 1 要塞戦戦例 2 外国築城之沿革 3 本邦築城の沿革 4 海軍の戦闘材料

1 3 6 ページ 6 7 - 1 2 6 は日本築城史

付図 2 5 版 3 6 図内 2 5 - 3 0 図は明治 3 3 年版と同様古城図

2 7 明治 43 年 1910 年 『築城史料』命第 3 3 号 明治 43 年 3 月 31 日築城部本部長村田淳

本書を以て本邦築城術沿革研究の参考とナスヘシ

築城史料は大日本築城史編纂の稿本なり。373 ページ。

大庭古城・菅谷古城・釜山鎮城・品川台場・五稜郭・和田岬・川崎・今津
西宮砲台図収録

なお、富原文庫本には明治 41 年 3 月『築城に関する実験付表付図』旅順
要塞史料 89 図が合冊されている。これについては、しらはく双書 1 1 ・
1 2 で復刻した。

2 8 明治 44 年 1911 年 『明治四十四年 築城学教程 永久築城学、要塞編成第 1 部 普通科

砲工兵用 第十一版』『同付図』2 冊 工第 2 3 4 号

明治 44 年 1 月 9 日陸軍砲工学校 和装本 44 枚

付図 大型本三十一版 50 図

2 9 明治 44 年 1911 年 『明治四十四年 要塞戦史 第二部第一版 高等科砲工兵用』

陸軍砲工学校 和装本 148 枚 旅順要塞の攻守

3 0 明治 45 年 1912 年 『砲工学校 要塞戦史第二部第二版上巻 高等科砲工兵用』

洋装本 273 ページ 本文は明治 44 年本と同様 付図付表が加わる。

3 1 大正 3 年 1914 年 『野戦築城教範改正草案』3 月 1 日兵用図書株式会社 豆本

3 2 大正 4 年 1915 年 『偕行社記事 第 497 号 航空術発達の築城術に及ぼすべき影響を論ず』

3 3 大正 9 年 1920 年 『大正九年改訂 築城学教程巻一・二終』第 2 7 9 号

大正 9 年 1 0 月陸軍士官学校 築城は軍隊の戦闘力を保持増進する一要素
にして、防者のみならず、攻者もまた之を使用を緊要とすることあり。中略
築城の効用は我火器の効力を発揚し敵火の威力を滅殺するにある。

巻 1 野戦築城 1 2 7 ページ 付図付表付録付図 同一本 2 冊

巻 2 永久築城 9 0 ページ 付図 4 8 版 7 5 図

3 4 大正 9 年 1920 年 『数線陣地に関する研究』大正 9 年 4 月陸軍歩兵学校将校集会所

教官陸軍歩兵少佐 山崎定義口述 112 ページ 付図 64 図

3 5 大正 11 年 1922 年 『野戦築城学講授録』陸軍大学校将校集会所

兵学教官陸軍工兵少佐高屋康彦述 4 3 2 ページ

付面大型 39 図 付録欧州大戦間野戦築城の変遷摘要

3 6 大正 12 年 1923 年 『大正十二年 永久築城学講義録 巻 1 ・ 2 』孔版印刷

中芝工兵大佐述 陸軍大学校 巻 1 68 枚 巻 2 139 枚付図印刷

3 7 大正 13 年 1924 年 『要塞戦術』孔版印刷、手書き資料、付図印刷大量の付図付表 27 問

3 8 大正 13 年 1924 年 『日本古戦法全』参謀本部編纂 大正 13 年 4 月 5 日参謀本部刊行

本書は明治 12, 3 年日本兵制沿革誌、日本兵器沿革誌と前後し、陸軍参謀局
廣田忠三郎起草、今校訂の上印刷す。

兵制・戦略・戦法・斥候・間諜・信号・行進・攻城・守城

3 9 大正 13 年 1924 年 『野戦築城教範改正草案』豆本 大正 13 年 7 月 5 日 225 ページ

4 0 昭和 2 年 1927 年 『『野戦築城教範』6 月 1 5 日陸軍大臣 軍令陸第 3 号 武揚堂 豆本

4 1 昭和 4 年 1929 年 『昭和 4 年 築城学教程 要塞配置 第十六版 高等科砲工兵用』

『同付図』陸軍砲工学校 工 436 号

第 1 版明治 29 年 7 月教官陸軍工兵大尉松井倉之助編纂以降改訂

付図諸外国要塞配置図折込 25 図

4 2 昭和 4 年 1929 年 『昭和 4 年改訂 戦術兵器築城の沿革並戦史集』397 号 10 月

陸軍士官学校 第 4 築城の沿革 117—128 ページ内皇国 6 ページ

付図 菅谷古城、豊臣氏の大坂城、品川台場、五稜郭のみ他図多数

4 3 昭和 4 年 1929 年 『昭和 4 年改訂 築城学教程 巻一・巻二』410 号 10 月

陸軍士官学校 巻 1 野戦築城 巻 2 永久築城（世界大戦）付図多数

4 4 昭和 5 年 1930 年 『昭和 5 年改訂 戦術兵器築城の沿革並戦史集』421 号 10 月

陸軍士官学校 日本築城の沿革昭和 4 年版同様

4 5 昭和 7 年 1932 年 『野戦築城教範』3 月 2 0 日陸軍大臣 軍令陸第 3 号 川流堂 豆本

4 6 昭和 7 年 1932 年 『昭和 7 年改訂 戦術兵器築城の沿革並戦史集』455 号 9 月

陸軍士官学校 日本築城の沿革昭和 4 年版同様

4 7 昭和 7 年 1932 年 『昭和 7 年改訂 築城学教程 巻一』463 号 11 月陸軍士官学校

4 8 昭和 8 年 1933 年 『昭和 8 年改訂学生用 築城学教程 全』494 号 2 月

陸軍士官学校 215 ページ付図付表多数

4 9 昭和 8 年 1933 年 『赤軍野戦築城教範』400 ページ 陸軍工兵学校研究部編

川流堂小林又七刊 昭和 8 年 11 月 20 日 小型本

5 0 昭和 9 年 1934 年 『築営教範』軍令陸第 6 号 4 月 15 日兵用図書株式会社 豆本

5 1 昭和 9 年 1934 年 『築営教範』軍令陸第 6 号 5 月 10 日一二三館 豆本

5 2 昭和 9 年 1934 年 『昭和 9 年改訂兵器射撃築城交通測図航空の沿革集全』5 0 9 号 9 月

陸軍士官学校 日本築城の沿革昭和 4 年版同様

5 3 昭和 12 年 1937 年 『昭和 12 年改訂 兵器射撃築城交通測図航空の沿革集全』6 0 3 号 9 月

78 ページ 陸軍士官学校 日本築城の沿革昭和 4 年版同様

5 4 昭和 13 年 1938 年 『野戦築城教育規定』教訓第 1 7 号 教育總監 4 月 16 日豆本

5 5 昭和 13 年 1938 年 『昭和 13 年改訂 兵器射撃築城交通測図航空の沿革集全』6 4 4 号

9 月 78 ページ 陸軍士官学校 日本築城の沿革昭和 4 年版同様

5 6 昭和 13 年 1938 年 『昭和 13 年改訂 築城学教程 巻一』6 6 8 号 9 月陸軍士官学校

追記・昭和 14 年 1939 年 『昭和 14 年印刷 築城学教程全』内題昭和 12 年印刷学生用

本文 153 頁野戦築城・永久築城・永久築城に依る陣地に対する攻撃

附録 1—7 附図 1—73 付表 1—5 詳細な要塞図集

5 7 昭和 15 年 1940 年 『昭和 15 年改訂 築城学教程 巻一』7 2 4 号 4 月陸軍士官学校

5 8 昭和 15 年 1938 年 『野戦築城教育規定』教訓第 1 7 号 1 0 月 5 日川流堂 豆本

5 9 昭和 16 年 1941 年 『昭和 16 年改訂生徒及学生用 築城学教程 全』9 9 号 6 月

陸軍航空士官学校 1 4 9 ページ付図付表多数

6 0 昭和 16 年 1941 年 『昭和 16 年改訂 築城学教程 巻一』7 5 7 号 8 月陸軍士官学校

6 1 昭和 16 年 1941 年 『歩兵築城第一部』陸軍歩兵学校 8 月野戦築城教範改正用豆本

6 2 昭和 16 年 1941 年 『築城交通参考図表』陸軍航空士官学校 1 4 表 小型本

- 6 3 昭和 17 年 1942 年 『昭和 17 年改訂生徒及学生用 築城学教程 全』 1 3 2 号 5 月
陸軍航空士官学校 1 4 4 ページ付図付表多数
- 6 4 昭和 17 年 1942 年 『昭和 17 年改訂 築城学教程 全』 7 8 5 号 1 0 月
陸軍士官学校 1 1 8 ページ付図付表多数
- 6 5 昭和 17 年 1942 年 『図上作戦（築城）』 4 月 14 日五十嵐少佐
『築城教練計画』 6 月 4・24 日五十嵐少佐
『築城之参考』 8 月五十嵐少佐
『築城原則』 1 2 月 3 日岡野少佐
以上 4 点 孔版印刷又は手書きで実際の講義記録
- 6 6 昭和 17 年 1942 年 『蘇軍野戦築城の素質及防禦築城編成設備に関する図例』
陸軍士官学校 11 月 大型折込図 2 枚
- 6 7 昭和 18 年 1943 年 『野戦築城教範編纂理由書（案）』 1 月 30 日陸軍工兵学校 50 ページ
『野戦築城教範編纂理由書（第二部）』 五十嵐少佐著
7 月教育総督部調整 11 月陸軍工兵学校複写 孔版印刷 32 ページ
『築城原則に関する課題』 孔版印刷 6 枚付図
- 6 8 昭和 18 年 1943 年 『特殊陣地攻撃に於ける師団工兵の行動の参考』 陸軍工兵学校
8 月 孔版印刷 極秘 172 ページ付表付図多数
- 6 9 昭和 18 年 1943 年 『昭和 18 年改訂生徒及学生用 築城教程 全』 2 0 2 号 1 0 月
陸軍航空士官学校 9 1 ページ付図付表多数
『築城教程付録 参考書』 2 0 3 号 59 ページ付図同一本 2 冊
- 7 0 昭和 18 年 1943 年 『野戦築城教範 第二部』 陸達第 2 6 号 1 0 月 1 0 日豆本尚兵館
- 7 1 昭和 18 年 1943 年 『昭和 18 年改訂 築城学教程 全』 8 2 1 号 1 2 月
陸軍士官学校 1 1 8 ページ付図付表多数
- 7 2 昭和 19 年 1944 年 『築城転地演習記事』 2 月陸軍工兵学校五十嵐 孔版手書き
- 7 3 昭和 19 年 1944 年 『野戦築城教範第一・二部』 陸達第 2 6 号 8 月 5 日 武揚堂豆本
追記・昭和 19 年 1944 年 『昭和 19 年印刷生徒及学生用築城教程全』
陸軍航空士官学校第 2 0 2 号 野戦築城・偽装・付表・付図・附録
『築城教程附録参考書』 第 2 0 3 号
永久築城・攻撃における築城・抗道・編束物及被覆
- 7 4 昭和 20 年 1945 年 『野戦築城教範 第二部』 陸達第 2 6 号 3 月 2 5 日 豆本
軍隊教育用図書株式会社
- 7 5 刊年不明 『永久築城学教程 卷二別冊』 図面集 1 2 図
- 7 6 刊年不明 『第三十八期生徒用 築城学教程』 孔版印刷 9 4 枚
- 7 7 刊年不明 『改訂 歩兵八書（射撃築城付表付図）付録』
築城の内題 野戦築城教範付図 1 4 3 図

4・築城学教程の系譜

以上、目録にあるように、全資料を所蔵できたわけではないが、79 種 106 冊（ ）の刊行物には、著作に関する履歴の記載が多くあり、初めて、研究史の大筋が明らかにすることになりました。すなわち、これまで、残片的に伝えられてきた、築城学教程の系譜を明らかにするものです。臨時築城、永久築城、築城沿革略史成立の過程を明らかにします。築城教程の初めての編纂は陸軍士官学校外人教師クレットマンです。ここでは築城学教程ではなく、築城教程とされ、臨時築城がまとめられています。

い) **旧陸軍築城資料の嚆矢 築城教程 明治9年8月 クレットマン著 陸軍士官学校**

明治9年8月陸軍士官学校学科部『築城教程』内題 築城教程読本

和紙活字袋とじ本 125mmx180mmx14mm 紙数97枚

陸軍士官学校が読本つまり教科書として作成、内容は陸軍士官学校教師クレットマン編纂、原胤親訳 付図が91図不明。本文1冊本付図不明。

本文内容 1 一般の要領並に定説 2 野堡を総称して堡塁の名目 3 経始 4 堡塁内部の編制 5 副防禦 6 遮蔽法及び野堡構築 7 変地に於ける堡塁 8 設堡陣地の攻撃及び守防 9 野堡の活用 以上、当時の要塞の実務書となっている。

ろ) 臨時築城教程 明治15年6月

明治15年6月陸軍文庫刊、第一版全の内容は築城教程とほぼ同様で、1 総論築城の定説 2 堡塁 3 経始 4 堡塁内部の編制 5 副防禦 6 遮蔽法及び野堡の構築法 7 陣地防禦編制法 8 野堡の活用 9 原野に於て軍隊の定位に関する作業 10 野堡の攻撃法・防禦法、紙数138枚と増補されている。又、築城教程では未発見の付図が225図と第二部付図が127枚有り、築城教程の不足を保管することが出来るかもしれない。第二部の付図は大版ですが、本文は不明である。

は) 築城学教程の始め 永久築城の内海岸築城 明治17年9月 陸軍大学校講本

築城学教程がどのように編纂されたのか、その経過は残された資料で見る限り、一度に完成したものではなく、全体の構想があり、必要なものから編纂されたものと見受けられる。編纂は臨時築城と永久築城に分かれているが、臨時築城が先の臨時築城教程で踏襲したものか、築城学教程においては、初期、永久築城のみしか見受けられない。すなわち、明治17年築城学教程初出永久の部第5編海岸築城と、ほぼそれに近い時期と推定される永久築城第二教程巻之二第五編海岸築城である。明治28年に第三版永久築城の部第四編まで、築城学教程は永久築城のみで、臨時築城は見られない。築城学教程は陸軍大学校の講義本として、9月陸軍大学校助教工兵大尉三村友芸によって、編纂され、陸軍文庫蔵とされている。

この時代の陸軍士官学校、陸軍大学、陸軍文庫の関係の整理は別途行いたい。

なお、築城学教程においては海岸築城の第1版は明治24年石川工兵大尉編纂としている。

に) 築城学教程の巻1 臨時築城完成 明治20年12月臨時築城の部

ほ) 築城学教程巻1—3巻完成 明治32年7月巻2交通の部完成

明治31年改訂築城学教程は巻1臨時築城、巻3永久築城となり、翌、明治32年7月教官陸軍工兵大尉岡田直方が巻2交通を編纂し、ここに、築城学教程巻1—3が完成したことになる。ただ、巻1の履歴に臨時築城の部明治20年12月編纂と有り、この完成時期を明示している。

へ) 築城学教程 素質 明治24年5月 陸軍砲兵学校陸軍工兵大尉石川義仙編纂

要塞戦術学教程 明治25年2月陸軍砲兵学校陸軍工兵大尉中村愛三編纂

築城学教程 要塞配置 明治29年7月教官陸軍大尉松井倉之助編纂

砲兵学校 要塞戦史 明治33年7月

築城学教程 要塞編成 明治36年6月

築城学教程 築城歴史 明治41年 明治40年11月築城素質の一部明治36年陸軍工兵少佐松井倉之助、大尉島捨吉編纂大尉松井順訂正築城歴史第1版とする。

陸軍砲兵学校が欧米の要塞戦術書や士官学校本を引用書目として、編纂したもの。

と) 築城沿革略史の初出 明治33年4月教官陸軍工兵大尉庄田藤治編纂

明治33年築城学教程は巻1臨時築城、巻2交通、巻3永久築城に加えて、巻3付録を添付している。表題は単なる、付録であるが、内題は築城沿革略史となり、ここに始めての日本築城史が登場する。翌、明治34年版には、表紙にはっきりと築城沿革略史と明記され、陸軍士官学校刊行物ナ

ンバー百が付されている。このナンバーは巻1にのみ表示されるが、おおよその刊行年を推定することが出来る。

内容は巻3付録 内題築城沿革略史 明治33年4月教官陸軍工兵大尉庄田藤治編纂 3

4年9月教官陸軍工兵中佐榊原昇造増補

1 外国築城の沿革 2 本邦築城の沿革 19—80ページ 付図17版23図

18図大庭古城

19図菅谷村古城明治33年3月29日歩兵中尉多賀宗之著

20図松山古城明治33年4月1日騎兵中尉佐伯岩二

21図鉢形古城明治33年4月10日測図歩兵中尉吉田護朗

騎兵中尉壬生基義

23図五稜郭平面断面図 陸軍工兵大尉岡田直方

となり、当時の貴重な測量図面と測量軍人の名前が明記されている。

明治42年版に置いては巻3に含まれ、巻3永久築城141ページ付図付表となる。

付録1 要塞戦戦例 2 外国築城之沿革 3 本邦築城の沿革 4 海軍の戦闘材料 136ページ 67—126は日本築城史

付図25版36図内25—30図は明治33年版と同様古城図

ち) **大日本築城史稿本 築城資料 陸軍築城部本部**

『築城史料』命第33号 明治43年3月31日築城部本部長村田淳

本書を以て**本邦築城術沿革研究の参考**とナスヘシ

築城史料は大日本築城史編纂の稿本なり。373ページ。

大庭古城・菅谷古城・釜山鎮城・品川台場・五稜郭・和田岬・川崎・今津・西宮砲台図収録

り) 築城学教程2冊本野戦築城、永久築城 大正9年昭和4年

築城学教程は交通がなくなり、野戦と永久の項目2冊となり、日本築城史も消滅する。

ぬ) 戦術兵器築城の沿革並戦史集 陸軍士官学校 第4築城の沿革 昭和4年

第4築城の沿革117—128ページですが、内皇国6ページのみ、

付図 菅谷古城、豊臣氏の大坂城、品川台場、五稜郭のみ他図多数

昭和9年に改訂兵器射撃築城交通測図航空の沿革集全と改題。13年まで出版される。

る) 築城学教程1冊本 昭和17年昭和18年

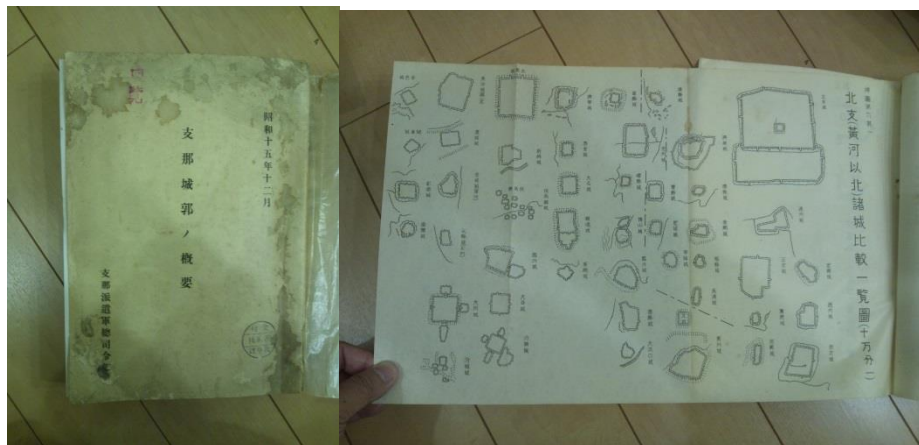
築城学教程は昭和7年、13年、15年、16年と巻1のみが確認され、巻2が見られない、同時に、昭和8年学生用として1冊本が、さらに、陸軍航空士官学校も昭和16年、17年1冊本を、ついに、昭和17年陸軍士官学校も昭和17年改訂築城学教程全として1冊本となった。昭和18年の陸軍航空士官学校1冊本は築城学教程でなく、築城教程に戻っている。

陸軍士官学校の築城学教程は1冊本として、昭和18年まで見られる、刊行ナンバーは821冊目となった。本文中刊行ナンバーは省略したが、目録にはわかる範囲で付与している。

何れの教本にも豊富な要塞地図が多数収録されている、何れこれらの資料集を編纂したい。

5・城郭研究史参考書目抄 所蔵富原文庫

- 1) 日本城郭研究史は城郭文献紹介の側面がある、今後、研究史を明らかにするために、明治城郭文献目録および、日本城郭文献総目録を編纂したい。
- 2) 城郭文献については数万冊、富原文庫の書架が一般城郭文献は編年、個別城郭については、県別、城別、編年となり、現物による検索を可能にしている。



支那城郭の概要表紙・折込

- 1 明治 29 年 1896 年 『古蹟取調会主意規則方法略』 9 月 発起活字本 第六府城関塞の旧址
 - 2 明治 32 年 1899 年 『日本城郭誌 巻首』 9 月 小野清
 - 3 明治 39 年 1906 年 『古事類苑 兵事部』 24-25 城郭 117 ページ
 - 4 明治 44 年 1911 年 『本邦城郭の変遷発達』 9 月 3 日 原秀次郎 昭和 4 年 越智郡郷土誌材
 - 5 昭和 4 年 1929 年 『古城址調査の栞 附 城制用語略解』 1 月 20 日 福島武雄 箕輪城考
 - 6 昭和 11 年 1936 年 『軍事史研究 創刊号』 軍事史学会
- 追加・昭和 15 年 1940 年 『支那城郭の概要』 12 月 支那派遣軍総司令部

- 7 昭和 33 年 1958 年 『明治維新以降本邦要塞築城概史』 4 月 29 日 藤沢一孝 76 ページ
- 8 昭和 33 年 1958 年 『古城概略』 11 月 1 日 陸上自衛隊第 1 管区総監部 窪田三佐
- 9 昭和 40 年 1965 年 『軍事史学 創刊号』 軍事史学会 5 月 1 日
- 10 昭和 46 年 1971 年 『城郭誌 VOL1 城郭文献目録』 4 月 10 日 城郭誌談会
- 11 昭和 58 年 1983 年 『築城・偽装』 3 月 陸上自衛隊幹部候補生学校
- 12 平成 3 年 1991 年 『城郭関係図書所在一覧』 日本城郭研究センター 城郭研究室

『支那城郭の概要』は今から 20 年前突如として、神田の一誠堂書店、慶文堂書店、東城書店、秦川堂書店に 4 冊現れた以降存在しない幻の書である。内 1 冊は落丁であった。一度、香港中文大学で縮小復刻されたが、原本の面影はなく、これも絶版となった。全 103 枚の大型市街都市実測図は戦前の中国都市の現状を知りうる貴重な図面である。

博物館事業報告

1・春日山城絵図・地図所蔵目録

- 1) **春日山古城之図** 78 x 99 cm 内題 **越後国頭城郡春日山城之図** 彩色筆写絵図 作成江戸時代
- 2) 越後古城旧跡図譜 全 1 冊 (仮題) 18, 5 x 26, 5 cm 絵図は見開き 2 頁 37 x 26, 5 cm 福島古城並今街之図、直江津今街眺望図、春日山古城、出之池図、糸魚川図、越後地誌 原題不明 彩色筆写図上記 5 図含む 11 行 44 頁和装本
(本誌は 25 年 12 月に**越後名勝誌**と判明した。本誌は 1 冊本であるが、確認本には上下と補遺で 3 冊本、上記以外に中世古城絵図数枚が描かれていたが、残念ながら落札できなかった。)
- 3) **謙信自画春日山城之図** 30, 5 x 52 cm 木版色刷 安政 7 年正月刊
郡上武学掌教 山脇正準謹識 図之履歴木版 8 行 北越流より南部侯浄画小見川の殿人荒井堯宗 門人飢肥のとの人守永宗模 要鑑抄乃真偽
- 4) 春日山城形図 76 x 84 cm 石版色刷図 清松軒七拾翁図之 明治刊
- 5) 袋題 上杉謙信公城趾 越後春日山旧図 板権所有清水氏 越後春日山旧図 74 x 86 cm

石版 色刷図 明治26年9月19日印刷22日出版32年7月 7日再版

編者清水佳之助 春日山城沿革略誌 周辺富岡蕉雨作直江津—高田鳥瞰図等周辺に記載

- 6) 春日山城絵図(仮題) 38x67cm 彩色筆写絵図 作成幕末
- 7) 越後国春日山城之図 36x54cm 筆写絵図 作成江戸時代 虫食い破損あり
- 8) 越後春日山古城略図 52x72cm 筆写絵図 作成幕末
- 9) 袋題 上杉謙信公城趾 越後春日山旧図 春日村木田清水氏蔵版
越後春日山旧図 55x54cm 石版図 明治26年9月19日印刷22日出版
編者清水佳之助 県社春日山神社参拝記念印 別に富岡蕉雨作直江津—高田鳥瞰図
- 10) 春日山神社二殿之図 38x51cm 石版図 明治33年10月1日発行 小川澄晴
- 11) 袋題 越後春日山旧図 春日村字木田 清水氏蔵版 絵柄付き
越後春日山旧図 53x55cm 石版図 明治26年9月19日印刷23日出版
編者清水佳之助
- 12) 袋題 上杉謙信公城趾 春日山旧図
越後春日山旧図 54x55cm 石版図 明治26年9月19日印刷22日出版
- 13) 袋題 上杉謙信公城趾 春日山旧図
越後春日山旧図 54x55cm 石版図 明治26年9月19日印刷22日出版
12と同一図であるが異版 大正13年7月11日正午探勝と記入
- 14) 袋題 上杉謙信公城趾 春日山旧図
越後春日山旧図 54x55cm 石版図 明治26年9月19日印刷22日出版
13と同一図である
- 15) 越後春日山旧図 55x54cm 石版図 明治26年9月19日印刷22日出版
編者清水佳之助 別に富岡蕉雨作直江津—高田鳥瞰図 9と同一図袋なし
- 16) 袋題 上杉公春日山在城之絵図 木版
上杉公春日山在城之図 石版図 明治40年4月出版 加藤長四郎 定価10銭
会津若松城絵図研究で著名な加藤長四郎の作品
- 17) 上杉謙信公城趾 春日山 40x27cm 春日山古城図 春日山付近図 大竹商店 戦前
12月に追加

銅版直江津、春日山、高田鳥瞰図 紀元2548年8月 富岡蕉雨 22x76cm

2・城郭関連錦絵所蔵目録

錦絵の内、印刷技術、軍隊調練、風景鳥瞰図、人物、江戸東京、立版古、日清日露、新版画、金鯨(名古屋城金鯨は前回記載のため省く)を除き、**城郭、古戦記関連の錦絵614枚の目録**である。同一画題が続くものは複数所蔵している。ここ3年の収集品は未整理である。これらは照明を減少した中での展示会対象としている。**城郭錦絵の展示会開催希望があれば、ご連絡ください。**

古戦記録

- 1 大手小野好古搦手源経基純友居城責 芳虎 3枚続き
- 2 大手小野好古搦手源経基純友居城責 芳虎 3枚続き
- 3 奥州高館大合戦 芳虎 3枚続き
- 4 陸奥国白川表大合戦之図 芳虎 3枚続き
- 5 源頼朝公奥州泰衡征討之図 芳虎 3枚続き
- 6 源頼朝公奥州泰衡征討之図 芳虎 3枚続き
- 7 八幡太郎義家奥州軍立之図 芳盛 3枚続き
- 8 奥州高館水責血戦之図 芳員 3枚続き

- 9 寿永三年正月十六日宇治川大合戦図 芳虎 3枚続き
1 0 倶利伽羅谷大合戦図 春亭 3枚続き内2枚
1 1 寿永二年木曾義仲平将知度倶利伽羅谷大合戦 芳幾 3枚続き
1 2 一谷鶴越阪落之図 芳靄 3枚続き
1 3 摂州須磨内裏源平大合戦之図 国貞 3枚続き
1 4 生田杜大合戦之図 芳虎 3枚続き
1 5 元暦元年2月7日摂州一の谷鶴越ヨリ義経平家ヲ攻ル図 芳藤 3枚続き
1 6 和田合戦義秀惣門押破 国芳 3枚続き
1 7 猿島偽館合戦図 芳員 3枚続き
1 8 太平記元弘元年山城国笠置城合戦図 芳員 3枚続き
1 9 **足利直義大軍楠正行赤坂之居城囲** 芳宗 3枚続き
2 0 足利直義大軍楠正行赤坂之居城囲 芳宗 3枚続き内2枚
2 1 **楠千剣破箆城之図** 芳虎 3枚続き
2 2 楠千剣破箆城之図 芳虎 3枚続き
2 3 **楠判官楠正成ハ一族一千早の城楯籠もり** 芳員 3枚続き
2 4 楠判官楠正成ハ一族一千早の城楯籠もり 芳員 3枚続き
2 5 **元弘年中楠正成北條が80万の大軍** 芳藤 3枚続き
2 6 元弘年中楠正成北條が80万の大軍 芳藤 3枚続き焼け
2 7 **楠正成千早城普請之図** 芳藤 3枚続き
2 8 楠正成千早城普請之図 芳藤 3枚続き
2 9 **赤坂合戦之図** 春章 3枚続き
3 0 贈従三位左近中将楠正成卿一 芳虎 3枚続き
3 1 **楠千剣破箆城之図** 芳虎 3枚続き
3 2 **楠正成河内国千早城鎌倉勢惣責寄** 貞秀 3枚続き
3 3 **楠正成千剣破城防戦図** 貞秀 3枚続き
3 4 **楠正成金剛山千破窟の城を築く図** 芳藤 3枚続き
3 5 楠公朝敵退治図 芳員 3枚続き
3 6 日本外史之内楠氏一 小林清親 明治12年3枚続き
3 7 **楠正成千早城ニテ音楽一** 貞秀 3枚続き内1枚
3 8 不明 貞虎 3枚続き内2枚
3 9 不明 合戦 芳虎 3枚続き内1枚
4 0 不明 城攻め 芳年 3枚続き内1枚
4 1 不明 城攻め 不明 絵本の一部小3枚続き
4 1 種114枚

武田上杉関連

- 1 武田信玄木曾左馬之介責 一松斎芳宗 3枚続き 額入り
2 **天文十五年信州戸石大合戦之図** 芳虎 3枚続き
3 **武田伊奈四郎勝頼一天正八年膳城素肌攻め** 芳虎 3枚続き
4 天文十六年越後国府内城主長尾晴景一 芳虎 3枚続き
5 天文十六年越後国府内城主長尾晴景一 芳虎 3枚続き 焼け
6 天文十六年越後国府内城主長尾晴景一 芳虎 3枚続き
7 名将諸国越征伐之図 芳虎 3枚続き

- 8 上杉武田対陣矢合之図 貞秀 3枚続き
- 9 川中島軍記之図 貞秀 3枚続き
- 10 甲越川中島大合戦永禄四年九月一日八幡原直戦之図 芳員 3枚続き
- 11 川中島信玄謙信旗本大合戦之図 国芳 3枚続き
- 12 川中島大合戦 芳靄 3枚続き
- 13 川中島大合戦之図 芳年 3枚続き
- 14 川中島大合戦之図 芳員 3枚続き内1枚
- 15 (川中島大合戦) 芳虎 3枚続き内1枚
- 15種41枚

織田戦記

- 1 太平記大合戦 桶狭間 国周 3枚続き
- 2 **稲葉山之城陥落千生瓢箪由来之図** 芳年 3枚続き
- 3 新撰太閤記永禄十二年伊勢攻め 豊宣 2枚続き
- 4 新撰太閤記永禄十二年伊勢攻め 豊宣 2枚続き
- 5 織田右大臣信長公一越前朝倉攻め 芳虎 3枚続き
- 6 織田右大臣信長公一越前朝倉攻め 芳虎 3枚続き
- 7 信長公延暦寺焼討ノ図 芳虎 3枚続き
- 8 **長篠大戦之図 孟斎芳虎 明治7年3枚続き**
- 9 鳥居強右衛門敵捕味方城中忠言 周延 染み 3枚続き
- 10 太田春永公之受命真柴久吉出陣之図 芳員 3枚続き
- 11 太田春永公之受命真柴久吉出陣之図 芳員 3枚続き
- 12 太田春永公出陣ノ図 広重 3枚続き
- 13 武智光年大多春忠の居城を攻める図 芳虎 3枚続き
- 14 **勇士左馬之助充未敵城を石弩火鉄にて打崩す図** 芳虎 3枚続き
- 15 勇士左馬之助充未敵城を石弩火鉄にて打崩す図 芳虎 3枚続き
- 16 勇士左馬之助充未敵城を石弩火鉄にて打崩す図 芳虎 3枚続き
- 17 勇士左馬之助充未敵城を石弩火鉄にて打崩す図 芳虎 3枚続き
- 18 春永本能寺合戦 英斎 慶応4年上野合戦 3枚続き
- 19 見立本能寺之場 国周 3枚続き
- 20 元龜三年十二月味方ヶ原戦争之図 孟斎 3枚続き
- 21 浜松籠城之図 孟斎 3枚続き
- 22 新撰太閤記 石山本願寺攻め 豊宣 明治16年2枚続き
- 23 新撰太閤記 石山本願寺攻め 豊宣 明治16年2枚続き
- 23種65枚

豊臣戦記

- 1 **大多春永之城塀百間斗崩一修復一猿吉郎** 国芳 3枚続き
- 2 大多春永之城塀百間斗崩一修復一猿吉郎 国芳 3枚続き
- 3 **織田信長公清須城修繕御覽之図** 芳藤 明治3枚続き
- 4 織田信長公清須城修繕御覽之図 芳藤 明治3枚続き
- 5 織田信長公清須城修繕御覽之図 芳藤 明治3枚続き
- 6 **元龜年中織田家城塀破損木下藤吉是か承三日の内二繕之図** 芳藤 2枚続き
- 7 元龜年中織田家城塀破損木下藤吉是か承三日の内二繕之図 芳藤 2枚続き内1枚

- 8 瓢軍談五十四場第四木下宗吉割普請一 芳艷 明治版 1 枚
- 9 瓢軍談五十四場第四木下宗吉割普請一 芳艷 1 枚
- 1 0 瓢軍談五十四場第四木下宗吉割普請一 芳艷 1 枚
- 1 1 瓢軍談五十四場第四木下宗吉割普請一 芳艷 1 枚
- 1 2 不明（清州城割普請）芳藤 3 枚続き内 2 枚
- 1 3 英名百勇伝挿絵 清州城塀修復猿吉郎 文久 3 年 小版 2 枚 2 組
- 1 4 赤松之城水責之図 国芳 3 枚続き
- 1 5 太功記之内高松水攻 芳年 3 枚続き
- 1 6 楠の智計赤松乃城を水責之図 貞秀 3 枚続き
- 1 7 高松城水責之図 芳艷 3 枚続き
- 1 8 高松城水責之図 芳艷 3 枚続き内 2 枚
- 1 9 豊臣勲功記高松城水攻之図 芳年 3 枚続き
- 2 0 豊臣勲功記高松城水攻之図 芳年 3 枚続き
- 2 1 豊臣勲功記高松城水攻之図 芳年 3 枚続き
- 2 2 水攻防戦之図 芳虎 6 枚続き
- 2 3 水攻防戦之図 芳虎 6 枚続き
- 2 4 水攻防戦之図 芳虎 6 枚続き
- 2 5 水攻防戦之図 芳虎 6 枚続き
- 2 6 水攻防戦之図 芳虎 6 枚続き内 1 枚
- 2 7 瓢軍談五十四場二十四赤松水責防戦難儀一 芳艷 1 枚
- 2 8 瓢軍談五十四場二十三・二十四赤松水責防戦難儀一 芳艷 2 枚
- 2 9 新撰太閤記高松城 豊宣 明治 16 年 2 枚続き 2 組 4 枚
- 3 0 山崎大合戦之図 貞秀 細川一山名偽装 6 枚続き
- 3 1 山崎大戦之図 芳年 3 枚続き
- 3 2 大津坂本落城に望みて主将光俊ハ天下の重器一 芳虎 3 枚続き
- 3 3 不明（賤ヶ岳合戦）芳虎 3 枚続き内 2 枚
- 3 4 不明（賤ヶ岳合戦）芳虎 3 枚続き内 2 枚
- 3 5 賤ヶ岳大合戦諸勇士高名之図 芳虎 3 枚続き
- 3 6 不明（賤ヶ岳合戦？）貞秀 3 枚続き内 2 枚
- 3 7 小牧山出陣羽柴秀吉敗走之図 芳虎 3 枚続き
- 3 8 太平記岩倉山落城図 国輝 3 枚続き
- 3 9 太平記岩倉山落城図 国輝 3 枚続き
- 4 0 豊公四国征討図 周延 明治 16 年 3 枚続き
- 4 1 新撰太閤記焼山城一四国 豊宣 2 枚続き
- 4 2 足利義満公大軍以菊地之居城攻 芳虎 3 枚続き
- 4 3 大内合戦之図 貞秀 3 枚続き
- 4 4 大内合戦之図 貞秀 3 枚続き
- 4 5 源頼信より平忠常大椎城水攻之図 貞秀 忍城？3 枚続き
- 4 6 源頼信より平忠常大椎城水攻之図 貞秀 忍城？3 枚続き
- 4 7 奥会津大合戦芦名盛隆敗走遂二降伏平定ノ図 国輝 3 枚続き
- 4 8 真柴久吉公名古屋御陣先手之諸大将朝鮮州くり出し之図 芳虎 3 枚続き
- 4 9 真柴久吉公名古屋御陣先手之諸大将朝鮮州くり出し之図 芳虎 3 枚続き 異版

- 5 0 太平記朝鮮征伐行軍図 貞秀 3枚続き
- 5 1 右幕下頼朝公渡海行粧之図 芳盛 3枚続き
- 5 2 加藤清正朝鮮ヨリ富士ヲ望ム 延一 明治43年3枚続き
- 5 3 **元和元年五月七日大坂落城諸勇士血戦之図** 芳虎 3枚続き
- 5 4 **太平記葛井寺合戦** 芳虎 6枚続き
- 5 5 太平記大合戦 大坂城 芳虎 3枚続き
- 5 6 源頼信より平忠常大椎城水攻之図 貞秀 忍城?3枚続き 額入り
- 5 6 種166枚

播州姫路城修築図3枚続きが2セットあります。

瓢軍談五十四場

1表紙—54大尾 芳艶 蔦吉版55枚揃い

- 2 第5岩倉焼討 芳艶 蔦吉版2枚
- 3 第9**須股築城** 芳艶 蔦吉版2枚
- 4 第11稲葉山攻め 芳艶 蔦吉版2枚
- 5 第12**稲葉山落城** 芳艶 明治版1枚
- 6 第12稲葉山落城 芳艶 蔦吉版2枚
- 7 第13城攻め水の手 芳艶 蔦吉版1枚
- 8 第28明智瀬田大橋 芳艶 蔦吉版1枚
- 9 第41賤ヶ岳 芳艶 蔦吉版1枚
- 10 第49四国攻め 芳艶 蔦吉版2枚
- 10 種69枚

品川台場

- 1 高輪蒸気車之図 不明 3枚続き内2枚
- 2 東都高輪蒸気車往来之図 芳虎 3枚続き
- 3 東都名勝之内高輪蒸気車鉄道全図 不明 3枚続き内1枚
- 4 東京品川海辺蒸気車鉄道之真景 広重 3枚続き
- 5 不明 品川台場蒸気車 不明 3枚続き内1枚
- 6 五十三次名所図会二品川 広重 1枚
- 7 五十三次名所図会二品川 広重 1枚
- 8 **品川御台場** 2代目立祥 1枚
- 9 不明 品川台場 不明 3枚続き内1枚
- 10 高輪蒸気車往来之図 国政 中版2枚続き
- 11 東都八景之内高輪之気帆 芳虎 1枚
- 12 東都八景之内高輪之気帆 芳虎 1枚
- 13 東京名勝尽 **品川沖御台場・高輪の大木戸等4図** 広重 小4図大版1枚
- 14 東京名勝尽 品川沖御台場・高輪の大木戸2図 広重 小2枚
- 15 東京名勝尽 品川沖御台場 広重 小1枚
- 16 東京開化三十六景品川沖 広重 中版横1枚
- 17 江戸名所四十八景高輪秋月 広重 中版1枚
- 18 東京名所内芝愛宕山 国輝 中版1枚
- 19 東海道中膝栗毛弥次馬品川 芳幾 中版横1枚
- 19 種26枚

戊辰戦争

- 1 **山崎合戦官軍大勝利之図 不明 6枚続きの右5枚**
- 2 山崎合戦官軍大勝利之図 不明 6枚続きの真ん中4枚額装
- 3 近世史略**薩州屋敷焼撃之図 国輝 明治24年3枚続き**
- 4 (山崎合戦図) 不明 瓦版2枚続き右欠け
- 5 東叡山戦争之図 慶応3年戊辰5月15日 豊国 3枚続き
- 6 **城中大火図(大坂城炎上)芳瀧 3枚続き**
- 7 奥州名所一覧之図 不明 仙台城 3枚続き内1枚
- 8 画卷国史**函館五稜郭奮戦之図 年英 3枚続き**
- 9 皇国一新見聞誌若松戦争 芳年・年雪 明治9年横1枚
- 10 皇国一新見聞誌宇都宮の戦争 芳年・年参 明治9年横1枚
- 11 不明 不明 絵本の一部。小3枚
- 11 種28枚

西南戦争

- 1 有のそのまま14号 戦地国界図熊本城 明治10年1枚金井徳兵衛
- 2 有のそのまま17号 熊本城籠城 明治10年1枚金井徳兵衛
- 3 有のそのまま16号 西郷隆盛熊本城攻め 明治10年1枚金井徳兵衛
- 4 **薩摩国全図 鳥瞰図 国政 明治10年3枚続き**
- 5 薩摩国全図 鳥瞰図 国政 明治10年3枚続き
- 6 肥後熊本戦地之図 鳥瞰図 国政 明治10年3枚続き
- 7 大隅薩摩海陸軍備一眺一覧 国政 明治10年3枚続き
- 8 西南暴徒熊本戦争之図 組上 長谷川貞信 3枚組揃え
- 9 鹿児島県暴徒熊本乱入図 周延 明治10年3枚続き
- 10 日向佐土原落城之図 不明 3枚続きの内2枚
- 11 鹿児島征討一覧 早川松山(徳之助) 3枚続き
- 12 鹿児島征討一覧 早川松山(徳之助) 3枚続き
- 13 鹿児島の賊軍熊本城激戦図 孟斎 明治10年3枚続き
- 14 鹿児島の賊軍熊本城激戦図 孟斎 明治10年3枚続き
- 15 鹿児島の賊軍熊本城激戦図 孟斎 明治10年3枚続き
- 16 鹿児島の賊軍熊本城激戦図 孟斎 明治10年3枚続き
- 17 吉治越賊兵砲発図 山崎年信 明治10年3枚続き
- 18 鹿児島新聞豊後鶴崎戦争 孟斎(永島辰五郎) 明治10年3枚続き
- 19 鹿児島の女軍隊力戦の図 孟斎(永島辰五郎) 明治10年3枚続き
- 20 不明 城攻め 月岡米次郎 3枚続きの内1枚
- 21 不明 鹿児島城 真近銀光 明治10年3枚続き内1枚
- 22 熊本伝報図画 大藪芳年(月岡米次郎) 明治10年3枚続き
- 23 鹿児島城山戦争之図 孟斎(永島辰五郎) 明治3枚続き
- 24 鹿児島暴徒肖像略伝 大藪芳年(月岡米次郎) 明治10年3枚続き
- 25 緑川歩行渉戦争ノ図 孟斎(永島辰五郎) 明治3枚続き
- 26 緑川歩行渉戦争ノ図 孟斎(永島辰五郎) 明治3枚続き
- 27 鹿児島征討記聞 周延(橋本直義) 明治10年3枚続き
- 28 鹿児島征討全記内 広重(安藤徳兵衛) 明治10年3枚続き

- 29 田原坂の大戦争 孟斎（永島辰五郎）明治3枚続き
- 30 鹿児島新聞熊本城戦争図 真近銀光（安達平七）明治10年3枚続き
- 31 山鹿口激戦の図 孟斎（永島辰五郎）明治10年3枚続き
- 32 鹿児島記聞 周重（守川音次郎）明治10年3枚続き
- 33 鎮撫鹿児島新聞 真近銀光（安達平七）明治10年3枚続き
- 34 佐土原城進撃之図 年信（山崎徳三郎）明治10年3枚続き
- 35 鹿児島城激戦図 周延（橋本直義）明治10年3枚続き
- 36 鹿児島新聞熊本城戦争図 真近銀光（安達平七）明治10年3枚続き
- 37 九州陣立の図 孟斎（永島辰五郎）明治10年3枚続き
- 38 山口城賊徒新聞 小林清親 明治10年3枚続き
- 38種99枚

3・平和島全国古民具骨董まつりに参加

12月東京流通センターにて開催の日本を代表する骨董市に参加しました。今回は**中国、台湾、朝鮮の都市地図をコレクションから除外し、1000枚近くを紹介しました。幕末から明治木版の北京首善図多種、江戸期の肉筆上海絵図、明治から戦前の大型市街地図として、北京、上海、香港、天津、長春、吉林、唐山、哈爾濱、南京、大連、青島、旅順、新京、奉天、ソウル、釜山、平壤、仁川、台北、基隆等、さらに陸地測量部や軍部の中国各地迅速図**も放出しました。いずれも54年間のコレクションで今では入手は非常に困難で、北京や中国各地、国内の中国人バイヤーで、台湾は開始、1時間で数十枚品切れ、中国も大半がなくなりました。中国の都市地図は今、日本にも全国の古書店にほとんどなく、最近は高く、今回のような譲渡価格では買えません。いずれも中国ではほとんど残されてなく、再度現地で販売されるようです。次回の出展を心待ちにされ、頻繁に連絡いただきますが、入手は困難です。今回はブースが人でいっぱいになり、通路がふさがれて、事務局から注意されたほどでした。日本関係では木曾街道錦絵類、天文23年1554年や慶長年間の稲富流砲術秘伝書等武具古文書、東郷平八郎、乃木将軍書軸等軍事資料、木版江戸名所双六等多数の双六、**北海道、東北、関東の都市地図、古文書**も提供しました。次回は1月11日12日の東京ビックサイト骨董ジャンボリーです。西日本の都市地図、古文書を提供します。平和島は26年3月、5月、7月、9月、12月に開催されます。

4・コラム提供

加工技術研究会 コンバーテック誌 鷹の目の狩人26年1月号『**1年の計さらなる希望へ**』、
2月号『**井蛙(いせあ)の積み重ね、自覚が新世界へ**』
御覧になりたい方は連絡いただければ、記事掲載後メールお送りします。
パートナー産業株式会社 お城ジオラマ復元堂 コラム『**城郭研究の軌跡 江戸の城郭模型**』
同社ホームページに掲載されています。ぜひ、ご覧下さい。

5・幕府武芸訓練場講武所絵図(仮)調査報告

講武所は万延2年(1861)水道橋内三崎町2丁目に建設され、慶応2年(1866)には廃止、陸軍所に吸収され、砲術訓練所となる。総裁2名、師範役、教授が置かれていた。教授には高島秋汎、勝海舟、大村益次郎、下曾根信敦、窪田清音がいた。本図には人名を確定する記入はないが敷地の大きさと形状から講武所とされる。本絵図には大砲稽古場、見分所、修行人溜所、大隊溜、小銃操諸稽古場、剣槍稽古場、御道具置所、剣槍修行人溜、剣術教授方、剣術世話心得部屋、槍術教授方部屋、槍術世話心得部屋、砲術騎範世話心得共太鼓打方世話手伝部屋、砲術騎銃隊教授方並太鼓打方世話出役部屋、西之御廊下、師範役部屋、御目見以上調方出役御役所人員、御目見以上調方出役御役所□械、御目見以上調方出役元□御役所、御目見以上調方出役日記□御役所、御目見

以上調方出役会合所、御目見以下調方出役日記□役所、頭取部屋、調所、御書籍部屋、総裁部屋、日次、中之廊下、大目付御目付控所、□従人控所、芙蓉間個控所、御小入目付控所、御法目付控所、大□両□控所、布衣□上控所、寄合控所、□役人応対所、玄関、御目見以下控所、□番詰所、御老□若方詰所、御成御門、表御門、御門番所、□役人入口御門、掛御役人評見之向供溜、見張所、下足番所、見張所、下足番所、見分所、小銃操練稽古場、惣供、道具部屋、湯呑□御世話役部屋、湯呑□部屋、総裁頭取供溜、惣馬立、中の口広間、見張所、御□所板之間、御土蔵、物置、掛り御役人並評見之向馬立、上小番部屋、下小番部屋、落間、御道具部屋、□武所番御□具御破損置部屋、□武所番肝煎控所、武所番組頭控所等の多彩な文字が記入されている。中でも総裁や師範、教授は講武所の役職であり、本図は日本唯一の講武所絵図である可能性が高い。絵図発見後、日本銃砲史学会や板橋区立郷土資料館へ撮影貸出し、年末に返却されたので、所蔵者の責任として絵図の検証を行った。135 x 154 cmの大型絵図を端から読み解いたため、順不動である。いずれ機会があれば、公開したい。判読不明が多く申し訳ないです。

新収集情報報告

1・銃砲・武具

機関銃突弾100連発 径12mm、長さ72mm、100連結の銃弾、下部に刻印あり

ピストル模型35丁 コルト等 ピストル模型累計は70－80丁

火縄銃口薬入 象牙木魚型根付付 幅54mm x 高さ74mm x 厚み20mm 火薬出口内径3mm 口薬（くちぐすり）は火縄銃の着火用微粉末黒色火薬で、火皿に装填し、導火孔から薬室内の胴薬（どうぐすり）玉薬（たまぐすり）に着火、爆発によって銃弾を発射する。口薬入れは胴薬入れと比べ、小型である。胴薬入れはよく見かけ、数種所蔵するも、口薬入れは少ない。

三方錐 3本 一見銚子であるが、実はたるに穴を開ける錐、武器として使える。長さ58cm、直径25mm、長さ46cm、直径19mm、長さ48cm、直径31mm

2・五街道其外分間見取延絵図 復刻全103巻内12巻

幕府が道中奉行に命じて、18世紀末から19世紀初頭に測量、文化3年1806年作成した道中図。一部を江戸城紅葉山文庫、一部を道中奉行に、東京国立博物館所蔵全91巻は紅葉山文庫本、道中奉行本は折丁で逓信総合博物館所蔵。平成4年に東洋美術から60，6%の縮小で103冊に復刻された。1冊ごとにタトウ入の絵図1冊と解説1冊がセットされている。1冊28840円～32960円と高額であり、今回4冊加えて12冊、3冊重複で下記9冊のみ所蔵している。東海道分間延絵図第4巻箱根 小田原から三島直前 山中新田に古城跡

第7巻江尻・府中・丸子 久能山、駿府城

第11巻浜松・舞坂・新居 浜松城

中山道分間延絵図第3巻熊谷・深谷 深谷に古城跡文字のみ

日光道中分間延絵図第1巻千住・草加・越谷

甲州道中分間延絵図第9巻上諏訪・下諏訪 高島城

矢倉沢通見取絵図第1巻塚原・関本・矢倉沢・竹ノ下 二子の渡しから大山迄 小田原城

第2巻御殿場・神山・佐野

美濃路見取絵図第1巻名古屋・清須・稲葉 名古屋城



左 山中城跡
中 駿府城跡
右 高島城跡

3・古絵図・古地図

改正東京巡見一覧

明治14年伊藤静斎編 37 x 51 cm 木版色刷 陸軍施設の多くが読みとれる希少絵図



海図 沖縄島南部 75000分1 昭和57年

奄美大島附近 125000分1 昭和60年

海図も7-800枚所蔵している。

北海道地形図 縁が切れているため、手元の明治23年北海道庁実測地図目録及び同庁発行20万分1地形図38枚と比較検証したところ、1枚は100万分1久遠、12枚は北海道各地5万分1明治20年頃迅速地図と思われる。

薄葉肉筆武州豊島郡江戸庄図 寛永9年申10月重開板 寛永江戸図の写しであるが、バラバラの状態、検証した結果、一応揃っていることが判明した。当文庫には江戸図の刊行図以前の肉筆大型切絵図10枚や、手書きの未整理の江戸地図がある。刊行図では約20枚の江戸分間大絵図他江戸図、東京図等数100枚所蔵している。

東北役官軍進路地図附五稜郭 55 x 79 cm 後編第2図とあり、戦史の附図か。

上州榛名山略小図 木版 28 x 37 cm 江戸版刊記無

多摩地区2万分1地形図 1-16号内1・2・6・9・10・13-15号8枚 軍隊の拡大図と思われるが、刊記がなく、作成経緯や年代は不明。46 x 58 cm。

安中城攻之図 春の展示会用に急遽手配したもの 中世安中左近が本丸に描かれた安中城の縄張と中山道の町屋方向から原美濃、甘利左衛門、碓井川を挟んで対峙する安中外記、城に西からは小幡上総、北からは曾根七郎兵衛が布陣する**武田信玄の安中城攻めを描いたものであるが、安中城の縄張図は近世安中城と類似し、本丸、二の丸と堀、城外と区画する四角形の防衛柵が絵がかれる。本図は春の展示会で公開したい。** 66 x 72 cm。

長野市平成21年度評価換え標準宅地 中央部1-4揃 6000分1 60 x 84 cm x 4枚

同1-11揃 13000分1 61 x 92 cm 計15枚19年11月作成

平成15年度須坂市路線価図 3000分1 15枚1冊 59 x 84 cm

平成15年度須坂市状況類似区分図 13000分1 4枚1冊 須坂市総務部税務課

航海図表 浅井栄資 78頁 昭和11年

天文航法新図表 佐崎俊雄 37 x 53 cm 4枚1冊 昭和13年

直惟公御追鳥狩之図全 内題直惟公新海表御追鳥狩之図 享保12丁未年(1727)2月26日卯之

下刻始り巳之下刻^終 彦根藩8代藩主井伊直惟（なおのぶ）武芸奨励と市井の視察を兼ねて大規模な鷹狩を好んで行ったとされる。**追鳥狩は軍事訓練**である。裏面に新海村御狩場御^物数として当日の雉、鳩、鴨等の数と所属人名が詳細に記録される。その人数129名に及ぶ。新海村は現在の彦根市の一部で、図には東から西に流れる愛知川中央に描き上下に展開する村、人を記入、馬印は絵で描かれている。65 x 76 cm袋付 袋に大家と記入



従余呉湖四方見分図 表紙に大家と記入 中央に景向湖という名で余呉湖を描き、上下に中央向きに周辺の山々を鳥瞰図として描く。文字も中央を境に逆に描かれている。まるで中央で降り、上下別に描画したような感じに見える。賤ヶ岳、旗立松、茶臼山、大岩山、田上山の間に3か所の陣名も記入される。賤ヶ岳周辺の絵図は比較的多く描かれる。



4・大江戸繁昌双六

明治22年10月長谷川園吉 85 x 72 cm 木版色刷22駒

5・城着物

大野城刺し子半纏

背に丸に大野城と書かれた消防用防火半纏、表に大野城市消防団第一分団班長とあり。昭和47年大野城市発足以降のもの。古代山城グッズ？は珍しい。

黒留袖 江戸城石垣・ガス灯



大野城半纏

江戸城黒留袖



羽裏（羽織の裏）姫路城・ 大島紬の岩国城・ 金襴の金沢城石川門

羽織、着物、帯、端切れ、半纏、Tシャツ、タオル等城グッズはコレクションアイテム。

6・刀装・城郭建築彫金小柄(こづか)・城郭建築かんざし

小柄は日本刀の鞘に副う小刀で、柄の部分に彫金される装飾性豊かなものであるが、柄に城郭建築が彫金された美しい小柄を発見した。なお、同様城郭建築装飾の特異な例として、立体城郭建築かんざしを所有しているので、お目にかかる。



7・欧版地図

キャプテンクックアジア図 45 x 54 cm 額62 x 73 cm 銅版手彩色 トーマスキッチン 1780年頃 『西洋人の描いた日本地図』サントリー美術館図録には掲載されていない。

蝦夷、北方領土図 50 x 70 cm 額69 x 90 cm 1643年調査1789年刊行 銅版手彩色 『日本北辺の探検と地図の歴史』『北方図の歴史』『蝦夷地図抄』『西洋人の描いた日本地図』には未掲載、年代的にはジェームズクック探検隊に由来するものか。 CARTE DES DECOUVERTES au Nord du Japon 下北半島、北海道、千島列島海岸線の多くの地名、沿岸からの水深が記入される。

ドイツ要塞鳥瞰図 銅版色刷 複製の可能性 21 x 33 cm 額46 x 60 cm

イギリス港湾鳥瞰図 銅版色刷 26 x 38 cm 額51 x 63 cm

8・印刷資料

亜鉛版写真原版 高知城天守 12 x 13 cm・13, 5 x 17, 5 cm・15 x 19 cm
金沢城石川門 14 x 20, 5 cm

焼印 剣方喰紋 焼印直径9 c m x 柄長さ35 c m・全長39, 5 c m

ブリキ板抜型5枚 材木印字用金型 枠付き2枚あり

印刷資料は木版、石版、銅版、新聞輪転印刷用凸鉛版、活字鑄造用紙型、段ボール印刷用樹脂版、ゴム版、亜鉛写真版、アルミP S版、印刷フィルム、グラビア印刷シリンダー、インド更紗、孔版、錦絵版木、型紙、焼印、シルクスクリーン型等版材、印刷用紙見本帳、印刷インキ見本帳、印刷物等正体不明のものまで大量にあり、**いつでも印刷文化展開催可能**、希望の方連絡ください。

9・錦絵

木曾六十九駅高崎 煙草屋源七加治川 豊国 大判縦一枚

天正十六年藤原重宗芦名盛隆ノ本城ヲ攻ル 附リ・日光今市口高原越ノ峠ヨリ磐梯山近郷湖水遠景之図 国輝 三枚続き 左に**若松城**、中央に**磐梯山と猪苗代湖**、右に遠景に**二本松城**、近景に**幕末の官軍**を描く、戦国時代に偽装した戊辰戦争絵図 磐梯山に会津富士とあり、磐梯山亀ヶ城と記されるも亀ヶ城、いわゆる、猪苗代城は描かれていない。



大日本六十余将**武田信玄**・小野田徳治金州門ノ爆裂ヲ見ル・佐久間盛政秀吉ヲ襲ウ・鹿児島戦争記事西郷小平・組上げ威海衛百尺崖所大寺少将勇戦ノ図・芳虎川中島合戦**山本勘助入道道鬼斎**・芳年大日本名勝鑑素戔鳴尊以上各一枚

鉄砲版画 豊国 里見義実 火縄銃

絵草子 復讐伊賀曙前編 芳員画泉市版 安政4年 木版 表紙に伊賀上野城

10・写真

鶏卵紙 名古屋城天守 6 x 10, 5 c m 明治

絵葉書は数百枚の城郭、町並、中国に出くわしたが、中国が高く一括落札できなかった。城郭のみ分譲いただく予定をしている。

11・古文書

諏訪一覧 明治15年藤森平五郎 横本8 x 15 c m 44丁 活字本

評註図解七書俚諺抄8・9・10巻 木版 内題武教七書合解太成俚諺鈔 日東武州江府住神田勝久編輯 軍用・三陣・軍略等により、多数の城攻具絵図、陣営図は実に31図の多きに及ぶ。

群馬県碓氷郡原市町(安中市)古記録古文書 車1車分大型桑折7ケース

膨大な資料で一時に整理しきれないが、ざっと1日目を通したところ、基本的に群馬県安中市原市町の町長桜井家作成所蔵にかかる**安中原市の基本資料**である。享保、明和、寛政、文化、文政、天保、嘉永、安政、万延、文久、慶応の古文書が23通。明治の**原市町行政資料**が約108冊。

前原用水資料が明治44年から昭和6年まで36冊、文久や明治中期の用水資料も含まれる。**碓氷社の養蚕資料**約87冊。明治衆議院大正県会議員**選挙資料人名簿等**21冊。測量野帳絵図3冊。

安政年間水帳大冊17冊上町、下町、鍛冶村、八本木、茂木、中組、安中峯築瀬、三軒屋、一里山等。明治六年戸籍、所得調査等17冊。桜井家関連古文書地租改正、竹売渡控等61冊。同志社明治23年**伝道日誌**等3冊。安中県田畑取調2冊、安中町諸税代納金控2冊。**榎下神社明細帳(榎下城所在地)**等寺社仏閣資料29冊(無量寺、皇太神宮、長泉寺、満福寺、貫前神社、八坂社、諏

訪社、真光寺、白山神社) 原市学校、原市銀行、碓氷産業銀行等 16 冊。熊谷県、群馬県布達等 14 通。桜井幹日記 3 冊。万延元年御本丸御焼失献金高割張 3 冊(江戸城)。安政2年御府内地震火災御屋鋪破損二付献金分間割合帳 2 冊。文久2年和宮様御下向調立金取立帳 2 冊。安政2年御姫様御縁談献金高割張 4 冊。嘉永7年異国船渡来二付夫人入用割合帳 2 冊。文久2年御巡見立場御宿割控帳 1 冊。明治2年4年御年貢取立帳 2 冊。領主地頭書上控 1 冊。慶応4年江戸より来状之写(異国船警備にかかわる動向) 1 冊。助郷、上毛新聞、徳川家記録各 1 冊。桜井家私文書 62 冊。以上 525 冊と桑折 5 ケース 分数千通の古文書。なお、碓氷社本社事務所は現存しており、群馬県指定重要文化財として保存されている。前原用水の記録は安中誌、安中市誌、安中市史通史編には見つけられなかった。



上田市中央北国街道要所柳町古文書8冊

文政12丑年(1829) 5天保15辰年(1844) マテ有 宗門5人組鉄砲証文控1番 柳町清左衛門組合

寛政5年丑(1793) 7月 居屋鋪表口裏行間数御改二付委敷 絵図面仕立て差上候控 土屋和七
文化7年牛(1810) 12月 2割増 下令同年1割増 下令右(3割増 5下令) 年之 下候
二付組合割合之控 清左衛門組合

人馬賃銭3割増 銭宿方為 御手当年之 下候二付 御通 文政2年卯12月 柳町清左衛門組合

文久2年(1862) 戊正月 宗門5人組鉄砲御改証文控 土屋儀七

小泉組・浦野組・塩田組・田中組・国分寺組・塩尻組・上田城町・洗馬組・川中島之内(村別石高帳) 都合6万88石8斗5升3合以上 元和8年戊(1622) 12月8日仙石兵部大輔殿 改役人 高家金之清

宗門 5 人組**鉄砲御改証文控** 文化 9 壬申（1 8 1 2）正月吉日 柳町清左衛門組合
明治 2 己巳ノ年（1 8 6 9）正月柳橋規則録 土屋儀七組合中
柳町は上田市中央に位置し、北国街道の宿場町、要所に位置し、今も古い景観を残す。

12・城グッズ

城描画絵皿 直径 3 2 c m 染付 **2層櫓**、前後に海か湖水 城名不明

城郭絵皿や地図絵皿も各種あり。城郭は清州城修築絵図、大坂城、ノリタケの名古屋城 2 種、犬山城等、地図皿は 5 枚組の明治の印判手、各種形の日本地図、花瓶、徳利等複製。

チェスセット 象牙製 チェスボード 1 舛 4 5 m m、ボード 3 5 x 3 5 c m、木彫枰 4 8 x 4 8 c m 1 6 駒 x 2 組の内、ルークと呼ばれる 4 個の駒は戦車といわれ、通常車輪の付いた要塞の櫓型をしているが、今回の**ルークは2重櫓で車がなく中国の城郭**を模している。1 辺 2 9 m m、高さ 6 3 m m チェスはもともと古代インドの戦争ゲームとのことですので、城があるのもうなずける。他の駒、キング、クイーン等も象牙で中国の偉人を模している。

城郭模型熊本城 1/144スケールプラスチックモデルキット熊本城 （株）G S I クレオスホビー 部発行 定価 2 5 0 0 0 円 限定版木製ディスプレイベース付 2 0 0 9 年中国製 未塗装未組立 昭和 3 5 年再建時図面を元に再現 大天守 6 階層、小天守 5 階層の内部も再現 完成後も各層分解可能 完成サイズ全高 2 9 5 m m、全巾 4 0 0 m m、奥行き 2 1 0 m m、総パーツ数 5 7 0 個 箱寸法 5 3 x 5 7, 5 x 1 6 c m 前月購入を見合わせたが、何とも気になり、早朝 3 時出発、4 回の挑戦で再度巡り合い、やむなく購入した。



模型の外函と内容。

附録城郭漫画

時代痛快絵物語風雲千早城 小山勝清作、千葉浩絵 冒険王 2 月号附録昭和 3 0 年 2 月 1 日

長編まんが風雲長篠城 斉藤くにお 小学館 刊記無 附録漫画は古書業界では人気が高い。

西洋要塞模型 用途は不明であるが精密に狭間、石落とし等再現しており、一見、縦型の箸入れのようである。材質はステンレス。 高さ 4 0 c m 巾奥行各 1 2 c m



あとがき

関係者の協力により、ようやく、ワードに画像を掲載できるようになりました。感謝です。大海で1本釣り、または岸から底引き網、釣り上げてみないと何があるかわからないような、瞬間の判断を要求されます。取り逃がした魚は大きく見えます。24時間城の限界を見極めようとしています。今年は日本唯一の城郭、古地図専門書店開業です。時間があれば、再びホームページを作りたいのですが、何時の事か。限界を感じますが、限られた生命力と時間、知力の中で精いっぱいやるしかありません。限界に挑戦することは生涯のテーマです。今後もよろしくお願いします。古地図、城郭関係資料の不要資料はお送りいただければ、買取や専門市場で委託販売します。



最後にお目にかけるのは冒頭紹介させていただいた山崎義隆氏寄贈小松益喜画竹田城趾です。私たちが訪れた50年前は誰一人お会いすることのない城跡でした。今では天空の城、日本のマチュピチュとしてテレビCMで放映されるなど驚きです。

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

379-0109

群馬県安中市秋間みのりが丘5-73

090-2722-4689 (しろはく)

FAX 027-315-4689 (しろはく)

shirohaku@kym.biglobe.ne.jp

お願い 本活動記録は自由に転送してください。こちらからの直接の配信を希望される方は、メールアドレスに登録しますので、返信をいただければと考えて居ます。都合でメールを受信できない方への配信は出来ませんので、その場合は代わりに受信できるご家族の方等のアドレスをご連絡ください。
